

全国福祉高等学校校長会 生徒意見体験発表



笑顔のおすそわけ ～ 地球のまばたきの中で ～ 一部抜粋

私が中学生の時、祖母はくも膜下出血で倒れ、それ以来**大好きな祖母の笑顔**と、私達家族の笑顔は減りました。そして、私は母の涙を生まれて初めて見ることになり、身内が病気になることが、家族にとってどれだけ不安で辛いことなのかを知りました。その後、祖母は老人保健施設に入所し、少しずつ忘れかけていた笑顔を取り戻してきたのです。私は嬉しくて、担当の介護士さんにお礼を言いました。するとその介護士さんは、「いいえ。私は特別なことはしてないよ。あなたのお婆ちゃんに、**笑顔のおすそわけ**をただけですよ。」と笑顔で話してくださったのです。「笑顔のおすそわけ」が当たり前になったら、どれだけの高齢者の日々を輝かせることができるのでしょうか。さらには、祖母に笑顔が戻ったことによって、私達家族も前向きに、祖母の障がいを受け入れることができるようになり、祖母に対して以前と同じ気持ちで接することができるようになりました。この経験から、障がいをおった高齢者だけではなく、それを取り囲む家族をも、**安心や安らぎで包み込むことができる「介護職」という仕事に強く惹かれました。**

私は将来、地球のまばたきにもすぎない、一度きりの人生を生きている高齢者の方との出逢いの中で、あの時の介護士さんのように「**笑顔のおすそわけ**」をしたいと思っています。「**一日でも長く、ここで生きたい**」「**あなたと出逢えてよかった**」と思って頂ける介護福祉士になりたいのです。

そして、これからの3Kは「**きれい**」「**きもちいい**」「**かがやく笑顔**」こんな風に介護の仕事が世間に認知され、誰もが長生きしたことに誇りを持ち生活できる日を目指して、介護のスペシャリストとして貢献していきたいと考えています。